

膨脹式ライフジャケット メンテナンス ブック

ライフジャケットを洗いましょう！



東洋物産株式会社

マリン部

第 1.4 版

膨脹式ライフジャケットはスプール（水感知センサー）の経年劣化により、まれに自然膨脹を起こしたり、水没しても自動膨脹まで時間がかかることがあります。

また、知らないうちに気室に穴が開いていたりすると万が一の場合、大変危険です。

お客様の安全ため、1年に1度程度、下記のメンテナンス実施をお願い致します。

1 ライフジャケットを洗いましょう！

部品をはずすことで水洗いができます。

2 乾燥させながら気密検査をしましょう！

エア漏れが確認できます。

3 スプール（水感知センサー）を交換しましょう！

安定した自動膨脹機能を維持します。

4 外観点検しながら収納しましょう！

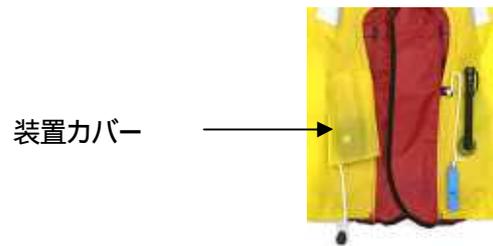
破れや破損が確認できます。

1 ライフジャケットを洗いましょう！



マジックテープをはずし、気室布を露出させます。

膨脹装置カバーをはずし、膨脹装置を露出させます。



装置カバー



ポンベをはずします。



スプールキャップをはずし、スプールを取り出します。
これで自動膨脹はしません。



水道水をバケツに溜め、本体の汚れを落とします。



給気チューブのキャップを必ず締めてください。



汚れがひどい場合は薄めた中性洗剤を、スポンジで軽くこすって下さい。



気室布・膨脹装置もスポンジで軽くこすって下さい。





洗い終わったら、水道水で良くすすいで下さい。



特に膨脹装置は、良くすすいで下さい。

また、本体を振って装置内の水気を切ってください。

2 乾燥させながら気密検査をしましょう！



給気チューブから気室がパンパンになるまで息を吹き込みます。



直射日光の当たらない、風通しの良い場所で乾燥させて下さい。



1～8時間放置後、手で押し
て気圧を確認をします。



減っている場合は、再度空気を
吹き込み水没検査を行ってく
ださい。



気室から気泡が発生しなければ
問題ありません。

もし気泡が発生する場合は空
気漏れを起こしていますので、
直ちに使用を中止してメーカ
一点検を受けてください。



乾燥したら空気を抜きます。
給気チューブキャップのつば
の部分チューブに差し込む
と、逆止弁が押されエアーが
排気できます。

注意！
尖ったものを差し込まないでくだ
さい。



製品を丸めて最後までエアー
を抜いてください。



逆止弁に異常が無いことを
確認し、キャップをしめて気
室を外装布に収納します。

3 スプール（水感知センサー）を交換しましょう！



完全に乾いていること、空気が抜けている事を確認してください。



特に膨脹装置内は念入りに水滴を取ってください。



引き手が下がっている時は、上に戻してください。



安全ピンを差し込んでください。

注意！

安全ピンの先を折らないように差し込んでください。



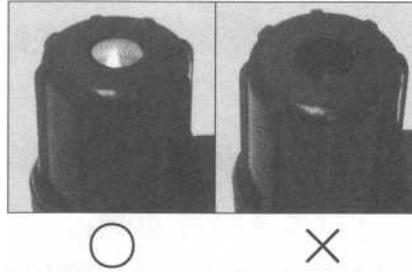
×

新しいスプールをセットします。スプールカバーを押し込みながら、右にまわして止まるまでねじ込みます。(スプールの上下は関係ありません。)

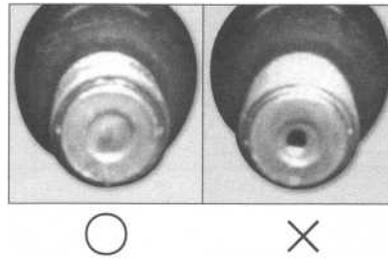


×

スプールキャップに隙間が無い事を確認！



ねじ込んだ後、伝動軸が上がっていることを確認！

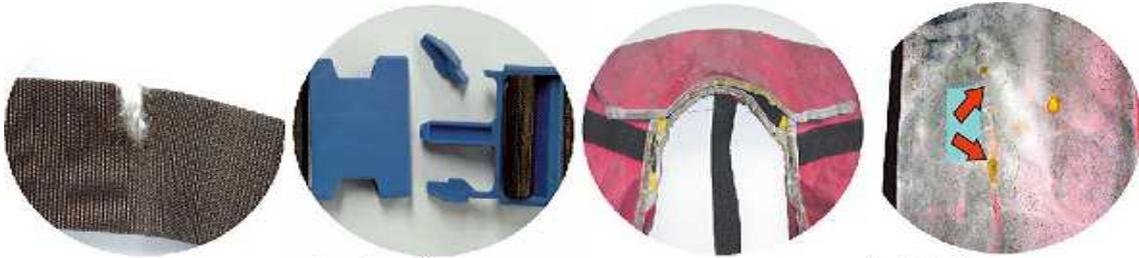


新品のポンペを右にまわし、しっかりとねじ込んで装着します。ポンペに穴が開いていない事を確認！



完成

4 外観点検しながら収納しましょう！



ベルトが
破損していませんか。

バックルが
破損していませんか。

縫い糸がほつれたり
切れていませんか。

気室布が
破損していませんか。

首掛けタイプ収納方法



スプール及びボンベ・安全ピンの再セットを確認してから、膨脹装置に保護カバーを被せます。(保護カバー無い機種もあります。)



気室の側面を表側に3つ折りし、面ファスナーで仮止めします。



気室の角を斜めに折り込みます。



側面を閉じます。(反対側も
~ と同様に行います。)



本体を裏にして、上側気室
を斜めに折り、三角形を作
って下さい。





三角形を二つ折りにします。



面ファスナーを閉じて下さい。



引き手が出ているか確認して下さい。

引き手



完成。

ベルトタイプ収納方法



スプール及びボンベ・安全ピンの再セットを確認してから、外装布を下にして置き、気室を横半分に折ります。



さらに、横半分に折る。



腰ベルトと気室の縫い合わせ部で縦に折り曲げます。



反対側の腰ベルトと気室の縫い合わせ部で縦に折ります。



気室を押さえたまま、外装布で気室を覆うようにマジックテープを止めていきます。中央部から徐々に気室を収納しながら面ファスナーを止めていくと折りたたみやすくなります。



引き手が出ているか確認して下さい。

← 引き手



完成